

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	606331に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	606331に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	606331に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	606331に同じ
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	606331に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	606331に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	606331に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	606331に同じ
												リハ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2006; 354: 2235-2249	606331に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	60633に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60633に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	60633に同じ
												B型肝炎C型 肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型 肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型 肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												B型肝炎C型 肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回 日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	60633に同じ
												C型肝炎	41st Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver 2006年4月26-30日	60633に同じ
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	60633に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006, Mar 19-22, Atlanta, Georgia. Abstracts #50	606331に同じ
258	2006/10/26	60640	沢井製薬	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
259	2006/10/26	60641	日本製薬	乾燥抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	E型肝炎	日本赤十字社 <a href="http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf">http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf</a>	北海道赤十字血液センターで献血者のHEV保有状況を調べた。平成16年11月1日から平成17年10月31日にブタ、シカ等の生肉、生レバーの喫食歴のある献血者は298,790人中802人(0.28%)で、その血液検体からHEV-RNAが1例検出された。平成17年11月1日から12月31日に生肉、レバー等の喫食歴のある献血者は49,361人中13,835人(28.0%)で、HEV-RNAが5例検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 <a href="http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,1765531,00.html">http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,1765531,00.html</a>	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14カ国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
260	2006/10/26	60642	日本製薬	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	E型肝炎	日本赤十字社 <a href="http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf">http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf</a>	60641に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	The Guardian 2006 年5月2日 <a href="http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html">http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html</a>	60641に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60641に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	60641に同じ
261	2006/10/27	60643	バイエル薬品	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国	有効成分	有	有	無	感染	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 3-7	1992年以来、米国の医学研究所(IOM)は、「新興感染症は、新型の、または再興する、または薬剤耐性の感染症であり、ヒトでの発生率が過去20年で増加しているか、近い将来増加するおそれがある疾患」と定義している。現在、トリインフルエンザ、ウエストナイルウイルス、重症急性呼吸器症候群(SARS)コロナウイルスの3つが注目されている。供血中の感染物質の存在は、血友病患者の治療に使われる血液や血液由来製品の安全性に重大な影響を与える。病原体の検出と除去が重要である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 8-15	vCJDは食物でBSEに暴露することで発生するとされていたが、輸血や血液製剤によっても伝播することが報告された。今までのヒトでの発症例は全てヒトプリオン遺伝子のコドン129がメチオニンホモ型のヒトであり、感染していても発症しない無症候性キャリアがいるおそれがある。非侵襲性の血液検査の開発が急務である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 16-20	vCJDが英国の血友病患者の臨床に与えた影響について述べた。2003年に輸血伝播vCJDによる最初の死亡例が報告され、2004年に輸血伝播vCJDのリスクがある全ての患者に通知することが決定された。2005年4月現在、A型およびB型血友病患者は全員、遺伝子組換え凝固因子を投与されている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 26-28	血友病の管理における新興病原体についての討論。英国ではvCJDが特に大きな脅威であるが、白血球除去により完全に伝播を防ぐことはできない。また遺伝子組換え製剤による治療が、全てのウイルス伝播リスクをなくすわけではないことなどが論じられている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝子型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
												C型肝炎	Transfusion 2006; 46: 469-475	米国の5つの血液センターで1999年から2001年12月に供血した2,579,290例についてHCV抗体、NATデータ、ALT値および人口統計学的特徴について分析した。ALT値はRNA陽性の初回ドナーで有意に高い傾向があった。ウイルス血症寛解は白人の方がアジア系や黒人より有意に高かった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2006; 46: 652-658	血漿分画時にTSE物質を除去する研究のために、スクレイバーに感染した脳から水溶性の感染性核体を調整した。263Kスクレイバー感染ハムスターの脳を10%PBS中に懸濁し、低速遠心分離後、更の上澄みを超速心(220000xg)した。得られた上澄みは感染性を有し、しかもPrPTSEの凝集体を全くまたはごくわずかしが含有しなかった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												パルボウィルス	J Clin Virol 2006; 35: 407-413	血液プール中の感染性パルボウィルスB19を自動的に高速に検出するための方法を開発した。B19蛋白合成は免疫蛍光染色で検出され、ウィルスDNA合成はdot blot hybridizationと定量的PCRで検出された。調べられた細胞株の中ではUT7/Epo-S1がB19感染に最も感受性が高かった。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウィルス陽性であった。ウィルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアググチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウィルスの特徴と同じであった。
												鳥インフルエンザ	ECDC Technical Report 2006年6月1日	ヨーロッパで発生している高病原性トリインフルエンザウィルス、特にA型H5N1による公衆衛生学的リスクについて論じている。ヒトの健康へのリスクとしては、トリウィルスによる直接感染、ならびに新しいA型インフルエンザ株の発生がある。感染予防のためには家禽および野鳥の調査、獣医と医療との連携、適切な情報の提供が必要である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Foreに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食入習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイビーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	全血輸血により、サルfoamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。自然感染ザル2匹の全血を、各々、レトロウイルスを持たないサル2匹に輸血したところ、1匹のドナーからのレシピエントでは感染し、もう1匹のドナーからのレシピエントは感染しなかった。ヒトでのSFV輸血伝播の可能性が示された。
262	2006/10/27	60644	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ臓腑	米国	製造工程	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝子型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
												BSE	USDA Statement 2006年5月2日	米国農務省はアラバマ州で発生したBSE陽性牛に関する疫学的調査結果について声明を出した。感染牛は安楽死処分され、検体採取後に焼却処分された。農務省動植物衛生検査部(APHIS)プロトコールに従って、家畜やヒトの食物連鎖からは除外された。当局の調査によれば、問題のウシは10歳令以上でFDAによる1997年の飼料規制令施行前に生まれていた。
												BSE	Centers for Epidemiology and Animal Health National Surveillance Unit 2006年4月27日	米国でのBSE感染率を推定するため、2006年3月17日までの7年間に集められたサーベイランスデータ(735213例)を用いて、統計的分析を行った。BSurvEモデル法およびBayesian Birth Cohortモデル法で分析した結果、米国における感染牛の数は極めて低いことが示唆された。
												BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	北アメリカにおけるBSEの最新情報(2006年8月24日現在)。カナダ食品検査局調査官は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月齢の乳牛に関する疫学的調査を終了した。問題の牛のどの部分も、ヒトおよび動物の食物システムには含まれていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイパーに感染させたハムスターの 血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間 の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢 でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染して いるが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学 的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的 早期診断を期待させる。
263	2006/10/27	60645	バイエル 薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ヒトトランス フェリン	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	感染	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 3-7	60643に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 8-15	60643に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 16-20	60643に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 26-28	60643に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60643に同じ
												C型肝炎	Transfusion 2006; 46: 469-475	60643に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Transfusion 2006; 46: 652-658	60643に同じ
												パルボウイル ス	J Clin Virol 2006; 35: 407-413	60643に同じ



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60643に同じ
												鳥インフルエンザ	ECDC Technical Report 2006年6月1日	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60643に同じ
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	60643に同じ
264	2006/10/27	60646	バイエル薬品	①人血清アルブミン ②オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	①有効成分 ②製造工程	有	有	無	感染	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 3-7	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 8-15	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 16-20	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 26-28	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60643に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	Transfusion 2006; 46: 469-475	60643に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Transfusion 2006; 46: 652-658	60643に同じ
												パルボウィル ス	J Clin Virol 2006; 35: 407-413	60643に同じ
												鳥インフルエン ザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041- 1043	60643に同じ
												鳥インフルエン ザ	ECDC Technical Report 2006年6月1 日	60643に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60643に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60643に同じ
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	60643に同じ
265	2006/10/27	60647	バイエル 薬品	①加熱人血漿たん白 ②オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	加熱人血漿 たん白	ヒト血液	米国	①有効成分 ②製造工 程	有	無	無	感染	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 3-7	60643に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 8-15	60643に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 16-20	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl. 1): 26-28	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60643に同じ
												C型肝炎	Transfusion 2006; 46: 469-475	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2006; 46: 652-658	60643に同じ
												バルボウィルス	J Clin Virol 2006; 35: 407-413	60643に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60643に同じ
												鳥インフルエンザ	ECDC Technical Report 2006年6月1日	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60643に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	60643に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	60643に同じ
266	2006/10/27	60648	日本メジ フィジックス	人血清アルブミンジエチレントリアミン五 酢酸テクネチウム(99mTc)	人血清アル ブミンジエチ レントリアミ ン五酢酸テ クネチウム (99mTc)	生物学的製 剤基準人血 清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			
267	2006/10/27	60649	大日本住 友製薬	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	加熱人血漿 たん白	人血液	米国	添加物	無	無	無			
268	2006/10/27	60650	大日本住 友製薬	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	ヒトリンパ芽 球細胞樹立 株ナマルバ 細胞	ヒト細胞		製造工程	無	無	無			
269	2006/10/27	60651	大日本住 友製薬	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	ウシ乳由来 成分	ウシ乳	ニュージ ーランド又 はオースト ラリア	製造工程	無	無	無			
270	2006/10/27	60652	大日本住 友製薬	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	ウシ血清由 来成分	ウシ血液	ニュージ ーランド又 はオースト ラリア	製造工程	無	無	無			
271	2006/10/27	60653	大日本住 友製薬	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	ヒツジ血清 由来成分	ヒツジ血液	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
272	2006/10/27	60654	大日本住 友製薬	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	鶏卵由来成 分	鶏卵		製造工程	無	無	無			
273	2006/10/27	60655	ZLBペー リング		ウマコラーゲ ン	ウマアキレス 腱	フランス、ド イツ、ベル ギー、イタリ ア	支持体	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
274	2006/10/27	60656	ZLBベ リング		ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			
275	2006/10/27	60657	ZLBベ リング		アプロチニン	ウシ肺	ウルグア イ、ニュー ジーランド	有効成分	無	無	無			
276	2006/10/27	60658	ZLBベ リング		トロンボプ ラスチン	ウサギ脳	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
277	2006/10/27	60659	ZLBベ リング		トロンピン画 分	ウシ血液	ニュージ ーランド	有効成分	無	無	無			
278	2006/10/27	60660	ZLBベ リング		ヒトフィブリ ノゲン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	海洋起源のVesivirus感染がヒトでどの程度広がっているかを調べた。供血基準をクリアした供血者群、ALT値が高いため供血不可であった供血者群、非A-G肝炎患者群、および輸血または透析に関連した肝炎患者群由来の血清をVesivirusに対する抗体ならびにゲノムについて検査した。Vesivirusピリオンに対する血清陽性は、各々、12%、21%、29%、47%であった。RT-PCRの結果、SMSV Vesivirusなどとの関連性が示された。感染がヒトに広くみられることが明らかになった。
279	2006/10/27	60661	ZLBベ リング		アンチトロン ピンⅢ	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60660に同じ
280	2006/10/27	60662	ZLBベ リング		ヒトアルブミ ン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	添加物	有	無	無	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60660に同じ
281	2006/10/31	60663	セローノ ・ ジャパン	ソマトロピン(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓	英国、米 国、カナダ、 デンマーク	製造工程	無	無	無			
282	2006/10/31	60664	セローノ ・ ジャパン	ソマトロピン(遺伝子組換え)	C127細胞株 (マウス細 胞)	マウス細胞	不明	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
283	2006/10/31	60665	セローノ・ジャパン	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	マスターセルバンク(不明)ワーキングセルバンク(米国)	製造工程	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(15) 2006年4月13日	米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 29(最終報告): 今回報告終了日-2006年4月4日。水疱性口内炎の2005年の家畜伝染病は終了したと考えられる。米国における水疱性口内炎の発生は季節的で、地理および気候などによって大きく左右される。これらの要因は将来的な発生を決定すると思われる。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(34) 2006年8月24日	米国における水疱性口内炎: 報告日-2006年8月18日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、アウトブレイクの詳細-Wyoming州, Natrona郡の農場における1件(アウトブレイクの開始日2006年8月13日): ウマにおいて疑い例30例、症例1例、ウシにおいて疑い例25例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(37) 2006年9月14日	米国における水疱性口内炎Follow-up report No.3: 今回報告終了日-2006年9月11日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、最後のfollow-up report報告以降、新規アウトブレイクは報告されていない。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(38) 2006年9月21日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.4: 今回報告終了日-2006年9月19日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新規アウトブレイク-Wyoming州, Converse郡などの農場における3件(アウトブレイクの開始日2006年8月30日~2006年9月6日): ウマにおいて疑い例8例、症例3例、ウシにおいて疑い例400例、症例5例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(39) 2006年9月28日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.5: 今回報告終了日-2006年9月26日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルス血清型New Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新規アウトブレイク-Wyoming州, Converse郡の農場(アウトブレイクの開始日2006年9月10日): ウシにおいて疑い例60例、症例1例。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060615.1665	米国ミネソタ州Kittson郡のウシの群で、2006年6月10日～11に、雌ウシ5頭および雄ウシ1頭が死亡しているのが発見された。血液サンプルが収集され、炭疽に陽性であったことが確定した。2006年6月15日現在、合計6例が死亡した。
												炭疽	ProMED-mail20060626.1775	米国North Dakota州Emmons郡においてウシ2例が炭疽で死亡した。同州において2006年で初の症例である。
												炭疽	ProMED-mail20060707.1868	米国Minnesota州で、2006年6月中旬にMinnesota Board of Animal Healthが2施設での炭疽による死亡を初めて報告してから、新たに9施設において家畜の死因として炭疽が確認された。この9施設で動物24例が死亡し、計31例の死亡となった。7施設はKittson郡にあり、ウマおよびバッファローにおいて炭疽が確認された。残り2施設はWoods郡であり、Woods郡のLakeの家畜において初めて記録された炭疽による死亡である。
												炭疽	ProMED-mail20060726.2057	米国Texas州で、Val Verde郡のシカ、およびCrockett郡のウシにおいて炭疽が確定された。
												炭疽	ProMED-mail20060724.2044	米国South Dakota州の家畜に再び炭疽が発生している。Hyde郡のワクチン接種を受けていないウシの集団(最初に死亡した5例を含む約100例)における炭疽が報告され、2006年7月24日に州獣医診断研究所は診断を確定した。
												炭疽	ProMED-mail20060721.2010	米国Minnesota州は87年間で最悪の家畜の炭疽のアウトブレイクに取り組んでいる。2006年6月中旬から、Minnesota州北西部の23の農場において、家畜68頭が死亡した。死亡した家畜の多くはウシであったが、バイソン5例およびウマ6例も死亡した。この最近のアウトブレイクはKittson, Roseau, Red LakeおよびLake of the Woods郡に限定されている。カナダも炭疽のアウトブレイクを報告している。
												炭疽	ProMED-mail20060817.2300	米国South Dakota州のウシの群において、2006年で2例目の炭疽症例が確認されたLincoln郡において最近炭疽が発見され、ワクチン未接種の51頭のウシの群の3頭が死亡した。2005年に500例を超えるウシ、バイソン、シカがSouth Dakotaで炭疽により死亡した。